

## 第十課

挨拶は心のパスポート

挨拶とは  
互いに目と首を寄せ  
感謝、友好の意を傳えるものの

# 单語

とる (取る・撮る・採る・獲る・執る)

不評 → 好評

異国 → 他郷 (たきょう)

ちょうど (丁度、調度)

いい度胸だ

禁物 → 油断禁物

ひよつとしたら、ひよつとすると

怠る：① しなければならないことを、なまけ心や不注意によりしない今までいる。「事件の報告を

ー・る」 「準備をー・らない」 → ② 油断する。気がゆるむ。

怠ける：① すべきことをしないで無駄にすごす。「仕事をー・ける」 「学校をー・ける」 → ② だ

らけている。③ 元気がなくなる。「とんだ顔つきがー・けて来た」 <滑稽本・続膝栗毛>

# 単語

甚だ → 甚だしい

挑発 → 挑む

意識的

おかす (犯す・侵す)

加える → 加わる

懐中電灯

擁する

とんだ (連体) : ① 思いがけないさま。意外で大変な。主に、よくない意で用いる。「一災難だつた」② ひどく道理にはずれた。あきれた。「—うそを言いやがって」③ (逆説的に) すばらしい。とてもよい。「—美人だ」

# 単語

どぎつい：人に不快感を与えるほどに強烈だ。いやらしいほどに激しい。「一・い化粧」

銘々：それぞれ。おのれ。一人一人。各自。副詞的にも用いる。「きっぷは一で持つ」

次第（名）：①順序。「式の一」②現在に至るまでに、物事がたどった道筋。事情。いきさつ。

「事の一を話す」「かような一で面白い」

（連体）①名詞について、その人の意向、またはその事物の事情いかんによるという意を表す。「どうするかはあなた一だ」「とかくこの世は金一」②動詞の連用形について、動作が行われるままにという意を表す。「成り行き一」「手当たり一に投げつける」③動詞の連用形または動作性の名詞について、その動作に続いてすぐにという意を表す。「満員になり一締め切る」「送金一現物を送る」）

# 文型

1.～からとって（逆接）

2.～にして

「～にして」の多くは「～で」「～でも」「～であって」に置き換えられる状況や場面や時を強調する表現になる。また、「Aにして、(かつ/同時に)B」の形で、「Aでもあり(かつ/同時に)Bでもある」の意味を表す。文型として重要なのは「～でさえ～できない」に相当する「～にして～(ら)れない」と、「～であってこそ～できる」に相当する「～にして、はじめて～(ら)れる」である。この二つの文型は口語でもよく使われる。なお、「幸いにして/不幸にして/一瞬にして/緊急にして」などは語彙として覚えた方がいい。

例：ローマは一日にしてならず。

# 文型

彼は政治家にして、かつ敬虔なクリスチヤンでもあった。

留学中は貧しくて食事も満足に食べられなかつたが、今にして思えば、ひたすら勉強に専念できた幸せな時代だった。

このような偉業は、私心のない彼にして、はじめて成し遂げることができたのだ。

不幸中の幸いとでも言いましょうか、大事故にもかかわらず、主人は幸いにして軽いけがですみました。

# 精読

1. 作者は、どのような根拠に基づいて、「(人と人との接近による摩擦を) 和らげる潤滑油が挨拶だ」と述べているか、まとめてみてください。
2. 文章の内容を踏まえて、挨拶の働きをまとめてみてください。
3. 作者の観点を一つ挙げて、それに賛成するかどうか、自分の観点や理由を説明してください。